

多様な意味を持つ「食文化」と今後のポイント

わが国の食文化研究の第一人者である文化人類学者の石毛直道によると、食文化は「農学、栄養学、生理学、歴史学、民俗学のほかに、世界の食文化の比較には民族学や文明論、食事空間について述べるとすると建築学、調理道具や食器については道具論、盛りつけに関する事柄には美学、食の情景描写に関しては文学、食品の価値や外食については経済学や社会学...といったふうに、おおくの分野を網羅する」(石毛, 2015:p.13)概念である。つまり、人間の生活の中での基礎的な営みとしての食は、**おのおのがおかれた多様な環境下でそれに適した文化を形成するもの**であり、わが国では、和食という独自の食文化が形成された。

「和食;日本の伝統的な食文化」は2013年12月にユネスコ無形文化遺産にも登録され、①多様で新鮮な食材とその持ち味の尊重、②栄養バランスに優れた健康的な食生活、③自然の美しさや季節の移ろいの表現、④年中行事との密接な関わり、が特徴とされる(農林水産省HP)。

資料: 日本農業経済学会編『農業経済学事典』『食文化と食育』(上岡美保)より引用

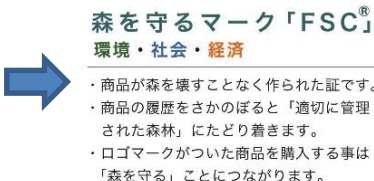
**ガストロノミーの視点を踏まえた
地域が躍動する社会づくりやそれを担う人材育成の必要性**

ガストロノミー: 健康的生活と食を通じた喜びを分かち合うための知識、体験、芸術、クラフトを統合した概念(霧島ガストロノミー推進協議会)

SDGsと私たちの行動



買い物行動を見直す
賞味期限・消費期限をチェックする
ドギーバッグ (mottECOモッテコ) を利用
調理技術を習得する
余剰食品をフードバンクに寄付する
フェアトレード商品を購入する
農福連携商品を購入する



学校教育の充実
地域の交流
異業種の交流
食育の推進 など



一人ひとりの小さな行動が相互に関連してSDGsに繋がっている

食育推進のためのピクトグラム

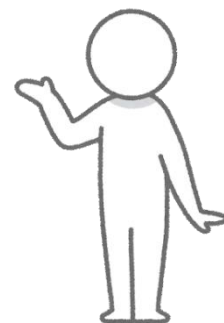


誰でも利用可能！

1 みんなで楽しく食べよう 笑顔と口を開けている顔	2 朝ごはんを食べてよう 朝日とご飯	3 バランスよく食べよう 食事バランスガイドコマ
4 太りすぎないやせすぎない 体重計	5 よくかんで食べよう よくかんで食べる子ども	6 手を洗おう 清潔な手
7 災害にそなえよう ペットボトルと缶詰	8 食べ残しをなくそう 食べ残したお皿	9 産地を応援しよう 海・山と生産者
10 食・農の体験をしよう 作物を持つ手	11 和食文化を伝えよう 茶碗とお箸	12 食育を推進しよう 食育を広める



SDGsについて考える場合には、まず、自分の身の回りのことから、何が、どうして大切なのかを振り返ってみる。そしてそれが地域や国や世界にどう繋がっていくのかを考えてみるのが大切。食育ピクトグラムを活用してください！



資料：農林水産省HPより転載

SDGsを食を中心とした身近な課題に落とし込んだ食育ピクトグラム

10月16日は世界食料デー／「国消国産」の日

JA全中が「国消国産」の日を宣言

SDGs「国消国産の日」を契機に、

持続可能な食料生産・暮らしやすい

地域社会について考え、行動する

国消
—こくしょうこくさん—
国産

こくしょうこくさん
「10月16日は国消国産の日」
食卓から日本の農業を応援しよう！

JA全中



「国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する」

※「世界食料デー(10月16日)」は、1981年に世界の食料問題を考える日として国連食糧農業機関(FAO)の創設を記念し、世界各国が食料問題を考える日として、国連が制定した記念日。

国消国産で農林水産業を維持！

◇地産（国産）がなければ地消（国消）できない!!

農業・農村が発揮する多面的な機能



地域の農林水産業の維持がSDGs貢献への基本
求められる食と農の理解と体験

◇農林漁業体験のエビデンス

農林漁業体験をすると こんないいこと

◆農林漁業体験は、食べ物に関する意識や知識と関係しています



◆農林漁業体験は、食べ物嗜好と関係しています



◆農林漁業体験は、食べ残しなどの食行動と関係しています



◆農林漁業体験は、心の健康と関係しています



食育・食農教育でエシカル消費ができる次世代を育てる

IV 食育(基本法)のこれまでとこれからの食育

◇第3次食育推進基本計画の重点課題(2016~2020年度)

食育の環と 5つの 重点課題

コンセプト:実践の環を広げよう

重点 課題 1

若い世代を中心とした
食育の推進

重点 課題 2

多様な暮らしに対応した
食育の推進

重点 課題 3

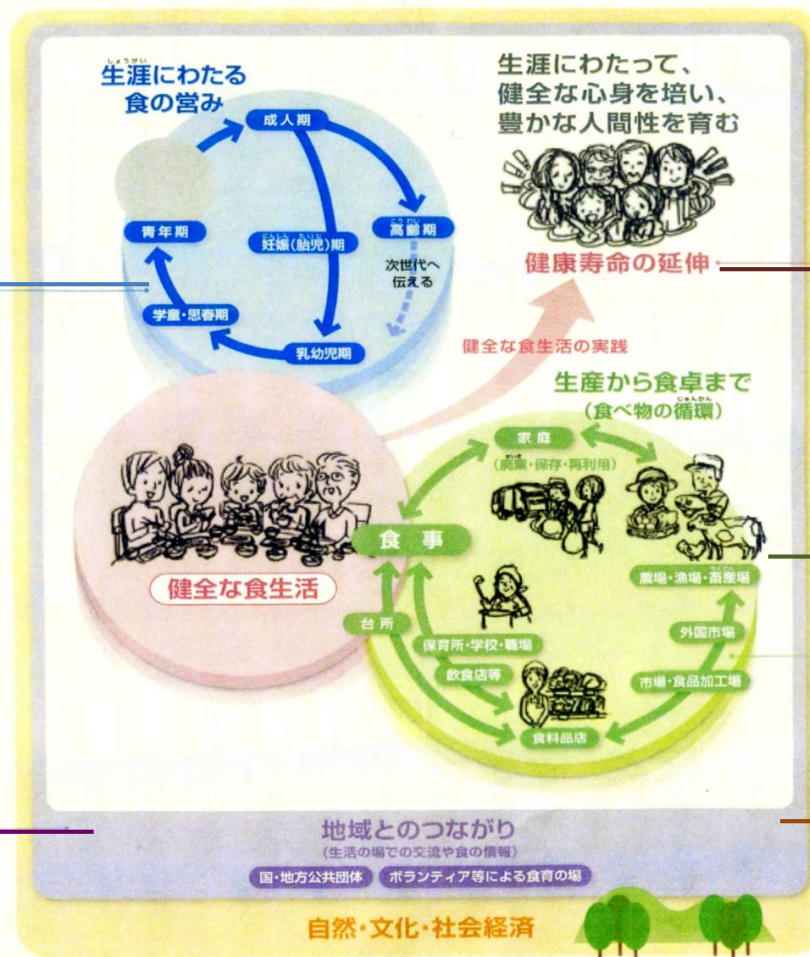
健康寿命の延伸に
つながる食育の推進

重点 課題 4

食の循環や環境を
意識した食育の推進

重点 課題 5

食文化の継承に向け
た食育の推進



さらにこれに付随した21の具体的目標項目が設定

第3次食育の推進に当たっての目標値と現状値

II 第3次食育推進基本計画における食育の推進に当たっての目標値と現状値

食育の推進に当たっての目標値と現状値

歩みを止めないことが重要



目標	第3次基本計画 作成時の値 (平成27(2015) 年度)	現状値 (令和2 (2020)年度)	目標値 (令和2(2020) 年度)
具体的な目標値			
1 食育に関心を持っている国民を増やす			
① 食育に関心を持っている国民の割合	75.0% *1	83.2% *2	90%以上
2 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数を増やす			
② 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	週9.7回 *1	週9.6回 *2	週11回以上
3 地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増やす			
③ 地域等で共食したいと思う人が共食する割合	64.6% *1	70.7% *2	70%以上
4 朝食を欠食する国民を減らす			
④ 朝食を欠食する子供の割合	4.4% *3	4.6% *4	0%
⑤ 朝食を欠食する若い世代の割合	24.7% *1	21.5% *2	15%以下
5 中学校における学校給食の実施率を上げる			
⑥ 中学校における学校給食実施率	87.5% *5 (2014年度)	93.2% *6 (2018年度)	90%以上
6 学校給食における地場産物等を使用する割合を増やす			
⑦ 学校給食における地場産物を使用する割合	26.9% *7 (2014年度)	26.0% *8 (2019年度)	30%以上
⑧ 学校給食における国産食材を使用する割合	77.3% *7 (2014年度)	77.1% *8 (2019年度)	80%以上
7 栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民を増やす			
⑨ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている国民の割合	57.7% *1	36.4% *2	70%以上
⑩ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合	43.2% *1	27.4% *2	55%以上
8 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民を増やす			
⑪ 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する国民の割合	69.4% *1	64.3% *2	75%以上
⑫ 食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む食品企業の登録数	67社 *9 (2014年度)	103社 *10 (2016年度)	100社以上

目標	第3次基本計画 作成時の値 (平成27(2015) 年度)	現状値 (令和2(2020) 年度)	目標値 (令和2(2020) 年度)
具体的な目標値			
9 ゆっくりよく噛んで食べる国民を増やす			
⑬ ゆっくりよく噛んで食べる国民の割合	49.2% *1	47.3% *2	55%以上
10 食育の推進に関わるボランティアの数を増やす			
⑭ 食育の推進に関わるボランティア団体等において活動している国民の数	34.4万人 *11 (2014年度)	36.2万人 *12 (2019年度)	37万人以上
11 農林漁業体験を経験した国民を増やす			
⑮ 農林漁業体験を経験した国民(世帯)の割合	36.2% *13	65.7% *14	40%以上
12 食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民を増やす			
⑯ 食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合	67.4% *14 (2014年度)	76.6% *15	80%以上
13 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民を増やす			
⑰ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている国民の割合	41.6% *1	50.4% *2	50%以上
⑱ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代の割合	49.3% *1	60.3% *2	60%以上
14 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民を増やす			
⑲ 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合	72.0% *1	75.2% *2	80%以上
⑳ 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する若い世代の割合	56.8% *1	67.1% *2	65%以上
15 推進計画を作成・実施している市町村を増やす			
㉑ 推進計画を作成・実施している市町村の割合	76.7% *11	89.3% *12	100%

資料:

- *1 平成27年度「食育に関する意識調査」(内閣府)
- *2 令和2年度「食育に関する意識調査」(農林水産省)
- *3 平成27年度「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)
- *4 令和元年度「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)
- *5 平成26年度「学校給食実施状況等調査」(文部科学省)
- *6 平成30年度「学校給食実施状況等調査」(文部科学省)
- *7 平成26年度「学校給食栄養報告」(文部科学省)
- *8 令和元年度「学校給食栄養報告」(文部科学省)
- *9 平成26年度「スマート・ライフ・プロジェクト登録企業数」(厚生労働省)
- *10 平成28年度「スマート・ライフ・プロジェクト登録企業数」(厚生労働省)

- *11 平成27年度内閣府食育推進室調べ
- *12 令和2年度農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課調べ
- *13 平成27年度「食生活及び農林漁業体験に関する調査」(農林水産省)
- *14 平成26年度「消費者意識基本調査」(消費者庁)
- *15 令和2年度「消費者の意識に関する調査結果報告書一食品ロスの認知度と取組状況等に関する調査一」(消費者庁)

農水省資料

◎達成 △改善 ▼悪化

目標達成が7項目、目標作成時より改善が6項目、目標作成時より悪化が8項目と食育の効果をもたらすことの難しさと継続の重要性が浮き彫りに